

タケのノメイガ類に関する生態及び防除方法の紹介



※注

1. 本資料は現時点で得られている知見を整理したもので、今後の調査・試験結果等により内容が変更される可能性があります。
2. 本資料は、京都府農林水産技術センター農林センター環境部が作成した講演会資料を基に、京都府山城北、山城南農業改良普及センターが再編集したものです。
3. 本資料の無断転載・二次利用はご遠慮ください。

京都府山城北農業改良普及センター
京都府山城南農業改良普及センター



ノメイガ類発生と防除措置の経過

特殊報		6 病 第 3 0 号
関係各位		令和 6 年 1 0 月 1 日
		京都府病害虫防除所長 (公 印 省 略)
病害虫発生予察情報について		
下記のとおり発表しましたので、送付します。		
◇		
発生予察特殊報第 5 号		
病 害 虫 名	シナチクノメイガ <i>Eumorphobotys eumorphalis</i> (Caradja)	
作 物 名	タケ類	
発 生 地 域	京都府南部（京都市、長岡京市）	
1 発生経過		
(1) 令和 6 年 7 月、京都市及び長岡京市のタケにおいて、葉の褐変及び葉枯れ症状が見られた。葉を確認すると、チョウ目の幼虫や蛹が確認された。採集した幼虫及び蛹を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、シナチクノメイガと同定された。		
(2) 本種は、近年侵入が確認された外来種であり、令和 2 年に愛知県で初めて発生が確認された。その後、静岡県、山梨県、神奈川県、東京都、千葉県、栃木県、兵庫県及び大阪府で発生が確認されている。		
2 形態及び生態		
(1) 本種はチョウ目ツトガ科に属し、成虫は開長 30～40mm で、触角は糸状。前翅前縁の先端部はゆるく曲がり、雌雄で色が異なる。本種は我が国のノメイガ類の中では大型であり、前翅に模様や斑紋がない。		
(2) 雄の前翅は灰褐色で、縁毛は基部が灰褐色となる黄色であるが先端部(a)と後縁部(b)は暗色。後翅は灰褐色で縁毛は前翅同様、基部が灰褐色の黄色（前翅後翅共にまれに黄褐色のものもある）(写真 1)。		
(3) 雌の前翅は黄褐色で末端付近が幾分ピンクになる(c)。縁毛は雄と同様で、基部が灰褐色の黄色で、先端部(c)と後縁部(d)は暗色。後翅は通常灰褐色で、中央部(f)が淡色となる(写真 2)。		
(4) 幼虫は、終齢で体長約 30mm 程度。体色は淡緑色～淡赤白色(写真 3)。		
(5) 幼虫は葉を縦じ合わせてその中で蛹化し(写真 4)、のちに成虫となる。		
3 被害の特徴		
主な寄主はタケ類で、幼虫が葉を加害し、加害された葉は褐変する(写真 5)。多発すると、緑葉がなくなる(写真 6)。		

令和 6 年 7 月 タケの葉にチョウ目幼虫確認

令和 6 年 1 0 月 特殊報発表（シナチクノメイガ）

令和 7 年 1 月 植物防疫法第 29 条第 1 項に基づく処置

令和 7 年 7 月 シナチクノメイガ以外のチョウ目幼虫確認

令和 7 年 9 月 植物防疫法第 29 条第 1 項に基づく処置の変更

令和 7 年 1 0 月 特殊報発表（キモンホソバノメイガ）



被害の現状と防除対策

被害の発生と影響

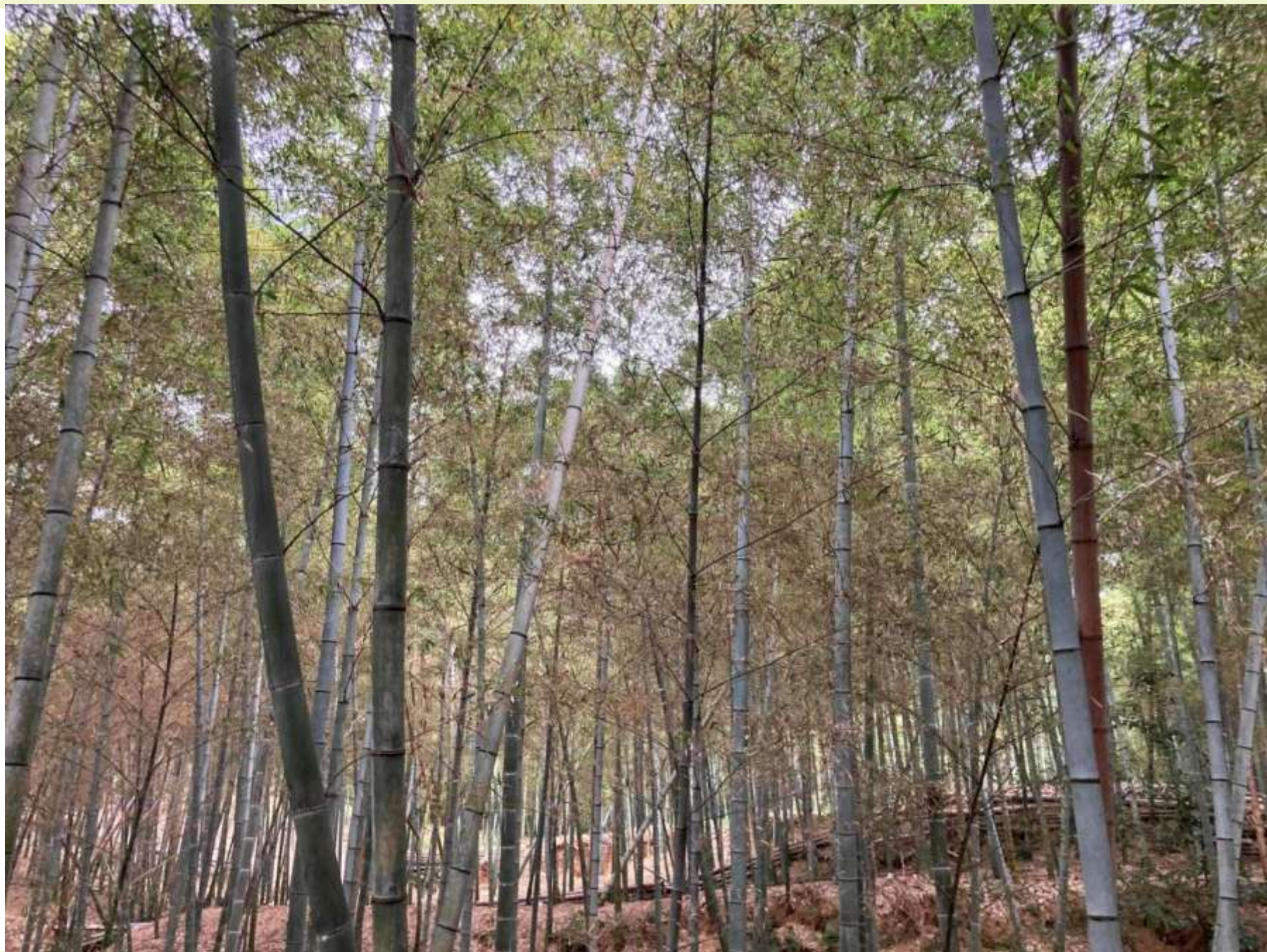
幼虫が竹の葉を食害します。その被害は春から夏に多く発生します。

たけのこの収量や品質への影響は不明です。

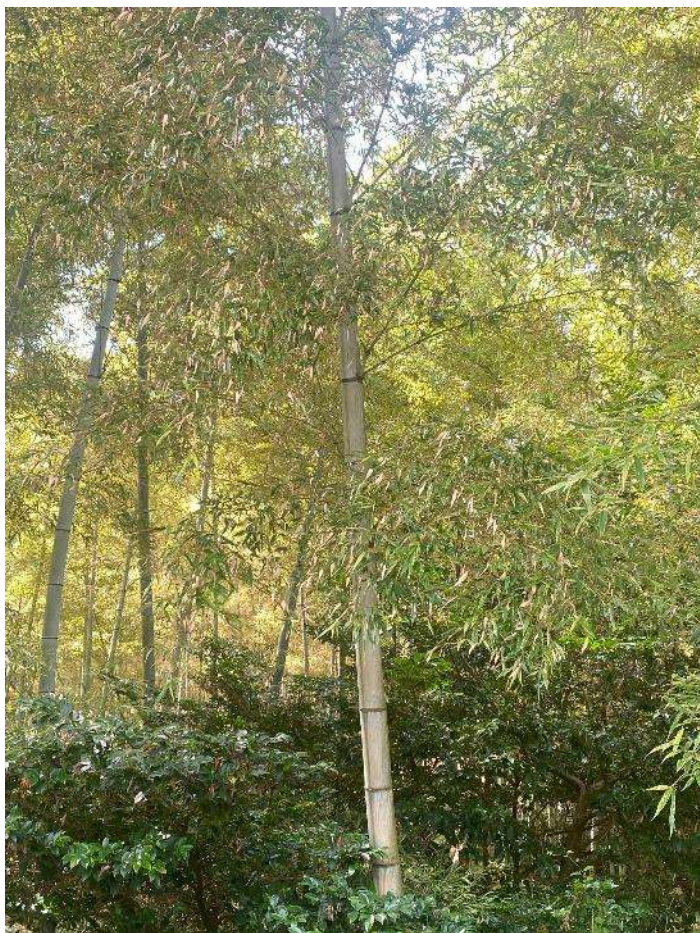
防除対策の実用化

発生時期や被害兆候を早期に把握して防除対策を行うことが、どの程度効果があるか、農林センターが試験しています。

被害写真



被害写真



被害写真



シナチクノメイガ？ 初期食害痕



キモンホソバノメイガ初期食害痕



キモンホソバノメイガ食害痕

被害写真（キモンホソバノメイガ）



卵塊



卵塊

被害写真

キモンホソバノメイガの
若齢幼虫



\\

ノメイガ類の生態と 予察灯誘引状況

/ハ

竹林に発生していた3種の蛾

シナチクノメイガ



キモンホソバノメイガ



セスジノメイガ疑似虫

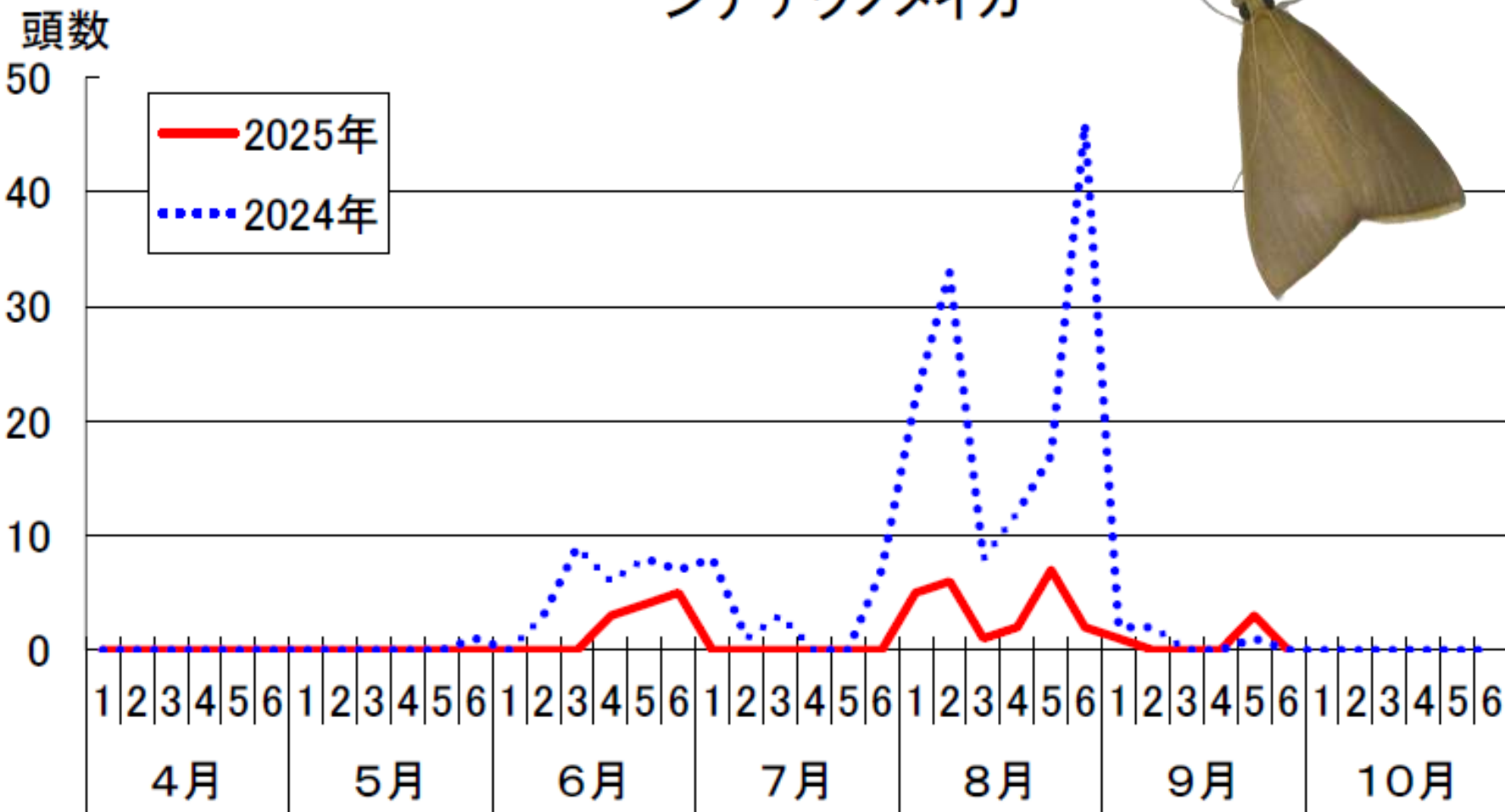


タケの葉を食害するノメイガ類3種の形態比較（未定稿）

虫種	シナチクノメイガ	キモンホソバノメイガ	セスジノメイガ疑似虫
卵塊	卵塊状（キモンホソバの卵塊に酷似）	 卵塊状	不明
若齢		 	不明
老齢	 	  	 
(識別)	・最長約40mm ・頭部は逆台形で柿色 ・胸部・尾部に特徴的な黒紋	・最長約30mm ・頭部は逆台形、中齢以降、黒褐色の斑紋 ・胸部・尾部に特徴的な黒紋	・最長25mm程度？ ・頭部はドーム型で柿色
繭を作る前			
繭	 葉を綴り合せて繭を作る 注) 観察のための手前の葉をはがしている	  タケの地際や物置等で殻に覆われた繭を作る	不明
食害痕	若齢：集団で加害し表皮が残って白い 中～老齢：数枚の葉を綴り合せる   	若齢：集団で加害し表皮が残って白い 中～老齢：1枚の葉が矢じり状   	若齢 不明 老齢：葉巻状  
成虫			 写真はセスジノメイガ

タケを食害する3種ノメイガの予察灯誘引状況

シナチクノメイガ



発生の特徴

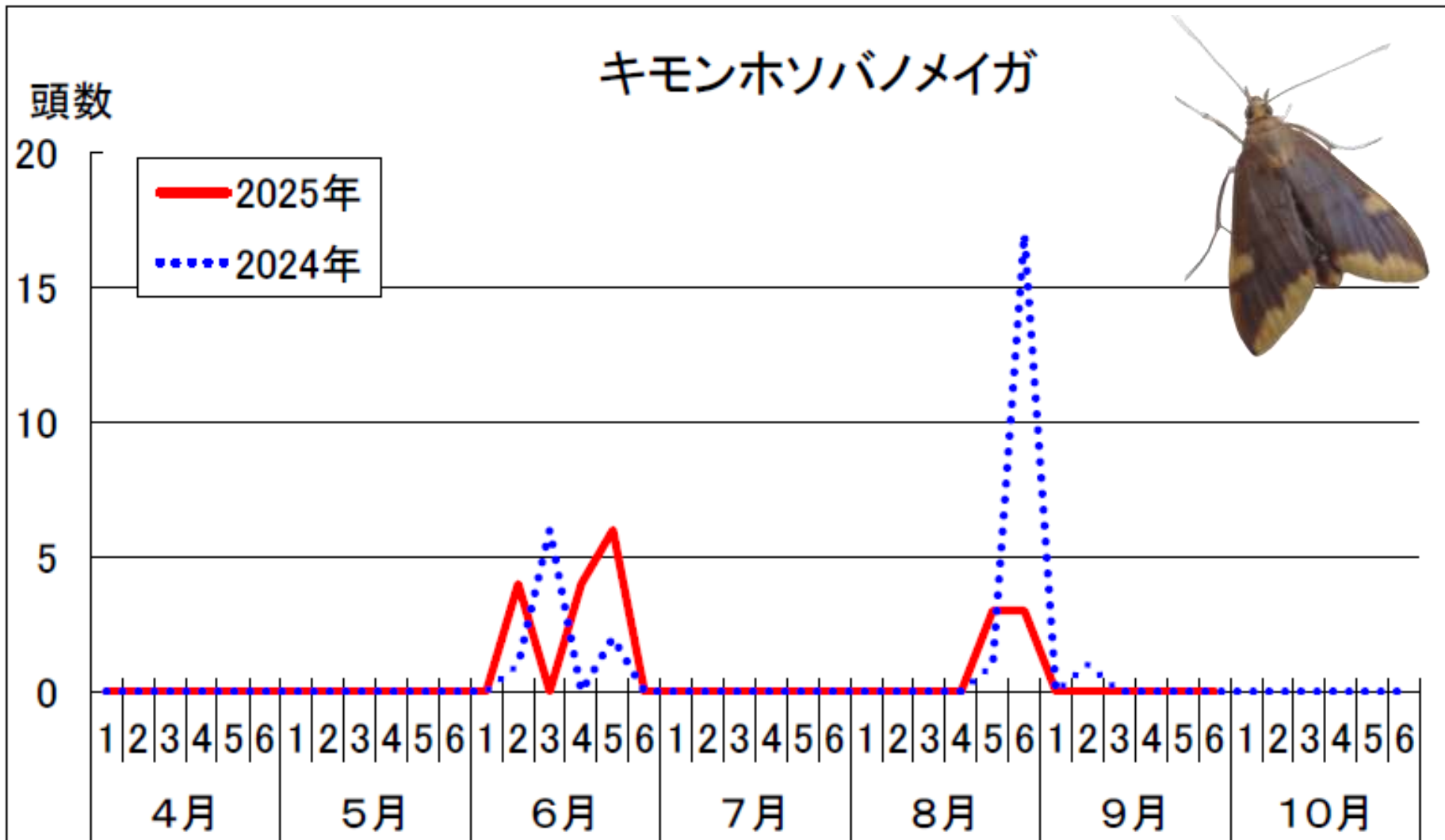
- ・発生は年2回
- ・発生ピーク
越冬世代：6月中～下旬
第一世代：8月
- ・第一世代は7～9月まで発生が長く続く

2024年と2025年の比較

- ・2024年は誘殺数が非常に多い。
- ・2025年は大幅に減少

注) 亀岡市内設置のスマートモニタリング装置の画像目視による半旬別誘引数。本装置は夜間にLED光源で虫を誘引し、定時的に画像撮影する。他の虫と重なる等、計数が困難となる場合もあり、おおよその誘引数である。

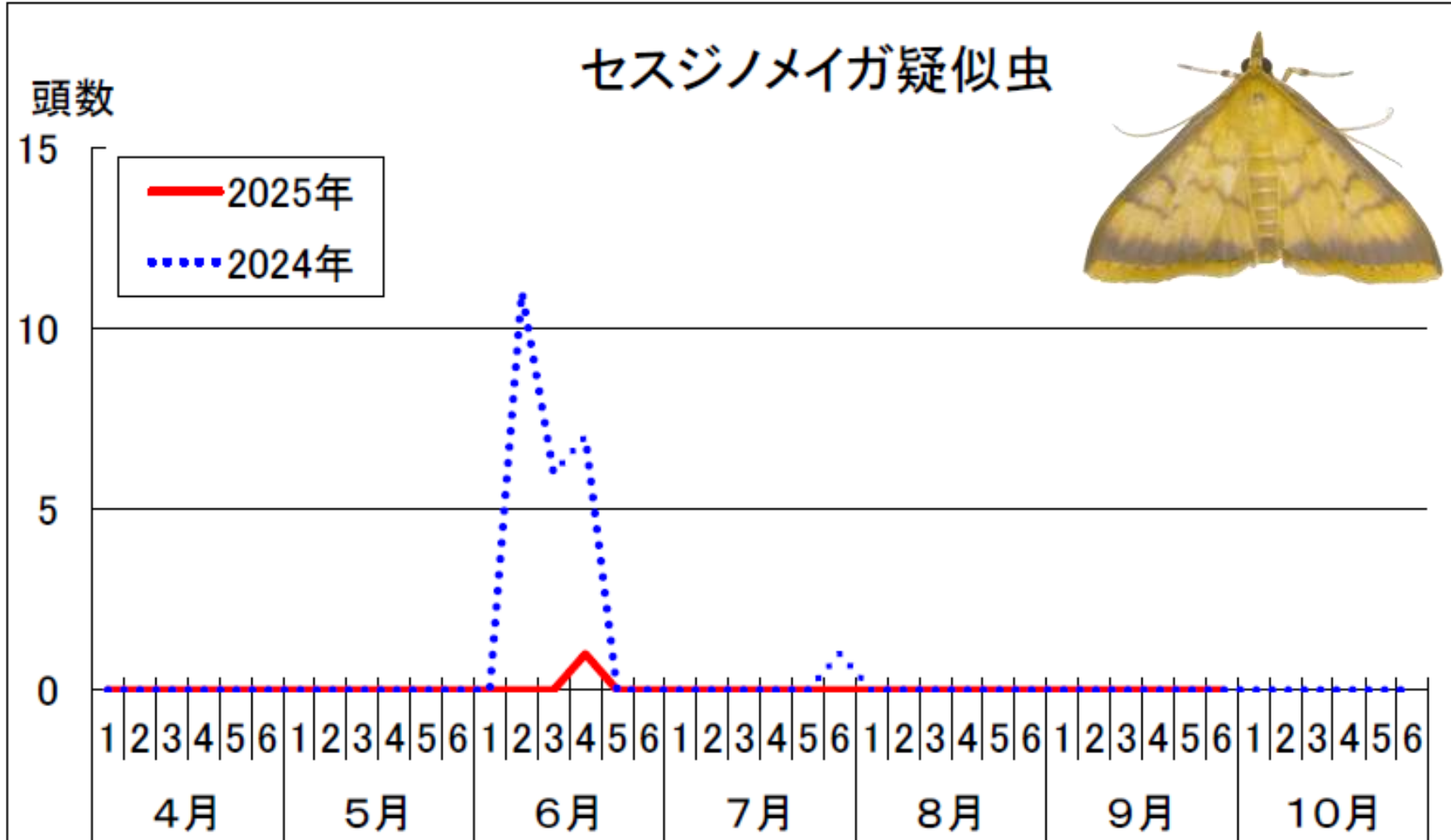
タケを食害する3種ノメイガの予察灯誘引状況



- ・発生は年2回。
- ・発生ピーク
越冬世代：6月上～下旬
第一世代：8月下旬
- ・越冬・第一世代とも、ピークは明瞭。

注) 亀岡市内設置のスマートモニタリング装置の画像目視による半旬別誘引数。本装置は夜間にLED光源で虫を誘引し、定時的に画像撮影する。他の虫と重なる等、計数が困難となる場合もあり、およその誘引数である。

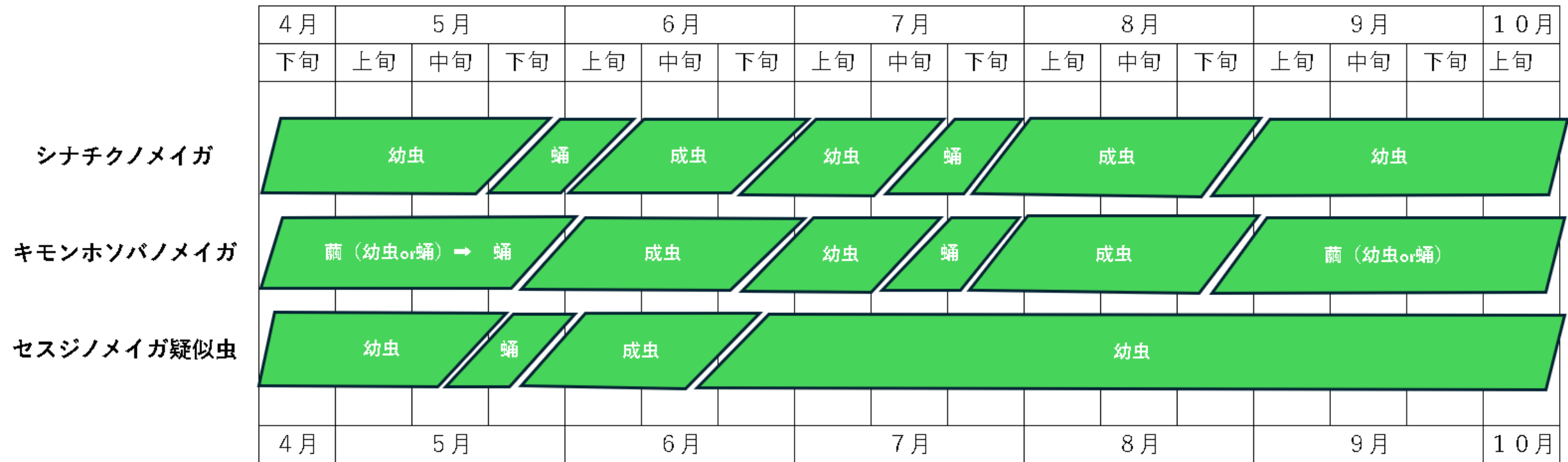
タケを食害する3種ノメイガの予察灯誘引状況



- ・発生は年1回（文献より）。
- ・発生ピーク
越冬世代：6上～中旬
- ・2024年は7月下旬にも1頭誘引があり、第一世代が羽化？
- ・2025年は1頭のための誘引。

注） 亀岡市内設置のスマートモニタリング装置の画像目視による半旬別誘引数。本装置は夜間にLED光源で虫を誘引し、定時的に画像撮影する。他の虫と重なる等、計数が困難となる場合もあり、おおよその誘引数である。

竹林でのライフサイクル予想



シナチクノメイガとキモンホソバノメイガ疑似虫は年2回の発生

シナチクノメイガとキモンホソバノメイガは近年、中国から侵入した外来種※1。

セスジノメイガは在来種で1957年に向日市で大発生した記録があります。

※1 現時点で、人の健康や生活環境への直接的な影響は確認されていません。

\\

タケのノメイガ類について
わかっていること、
わからないこと

/\

越冬形態、越冬場所

種類	越冬形態	越冬場所
シナチクノメイガ	幼虫？	不明
キモンホソバノメイガ	繭（幼虫or蛹）で越冬	竹株元や地際の隙間・落葉層、建造物の隙間など
セスジノメイガ疑似虫	幼虫？	不明

成虫発生ピーク、世代

種類	越冬世代	第一世代
シナチクノメイガ	6 月中～下旬	8 月
キモンホソバノメイガ	6 月中～下旬	8 月
セスジノメイガ疑似虫	6 月上～中旬	—

発生消長の年次変動、正確な世代数、地域差が不明。各齢期の発育速度と有効積算温度が不明。移動距離も不明。

被害の兆候

種類	初期被害
シナチクノメイガ	葉の表皮を残して集団で食害し、被害部は白くなる。
キモンホソバノメイガ	同上
セスジノメイガ疑似虫	不明

発生消長の年次変動、正確な世代数、地域差が不明。
各齢期の発育速度と有効積算温度が不明。移動距離も不明。

防除基準、防除適期

種類	防除基準	防除適期（若齢幼虫期）
シナチクノメイガ	葉の食害痕や若齢幼虫を確認 ➡初動	6月下旬～7月中旬？
キモンホソバノメイガ	同上	同上
セスジノメイガ疑似虫	同上	6月中旬～7月中旬？

防除基準は、試験未実施のため明確でない。
幼虫の発生時期、発生時期の地域差、連続発生時の最適散布
間隔が明確でない。

使用できる農薬、天敵

種類	植物防疫法第29条第1項 に基づく特例	天敵
シナチクノメイガ	エスマルクDF（京都府）	ヤドリバエ科という報告あり
キモンホソバノメイガ	同上	同上
セスジノメイガ疑似虫	同上	不明

エスマルクDFの実施効果（世代、齢期別）が不明
周辺生態系への影響が不明

\\

今可能な防除対策（案） の実践方法

/

現在の防除方法と注意点

表 植物防疫法第29条第1項に基づきノメイガ類に使用できる防除薬剤

農薬名	作物名	適用 病虫害	希釈 倍率	散布液量	使用時期	使用 回数	使用 方法
エスマルク DF	野菜類	コナガ	1,000～ 2,000 倍	100～300 リットル/10a	発生初期 但し、収穫前日 まで	－	散布

注) 上記薬剤の登録内容は令和8年1月27日時点

本害虫には、発生初期に薬剤散布を実施する。

なお、希釈倍数、散布液量、使用時期、使用回数、使用方法は、野菜類の「コナガ」に対する登録内容に準ずる。

また、上記の農薬の使用にあたっては、通常の農薬の使用時と同様に、農薬を使用した年月日、使用した農薬の使用量、場所等について帳簿に記載すること。

参考

植物防疫法第29条第1項

有害動物又は有害植物がまん延して有用な植物に重大な損害を与えるおそれがある場合において、これを駆除し、又はそのまん延を防止するため必要があるときは、都道府県は、植物を検疫し、又は有害動物若しくは有害植物の防除に関し必要な措置をとることができる。

※エスマルクDFの使用は、植物防疫法第29条第1項に基づき、京都府内でのみ可能です。他の都道府県での使用を認めるものではありません。

現在の防除方法と注意点

防除時期の目安

防除適期が不明であるが、**食害痕や幼虫を確認したら初動することが望ましい**と考えられる。
このことから防除時期は、害虫の発生初期である**6月中旬から7月中旬頃**と考えられます。

注意点

農薬防除によって、どの程度の効果があるかは試験例が少なく、データがありません。また、防除後にも、周辺の未防除ほ場から害虫が侵入する可能性があります。

そのため、**複数回の防除が必要**になる可能性があります。

使用者の安全確保

散布は上向きに行うため、大量の散布液が自分にかかる恐れがあります。

必ず**防護装備（カッパ、マスク、ゴーグル、ゴム手袋など）**を**しっかり着用**してください。

農林センターで防除で使用している機械

- ・現在使用している機種

丸山製作所 自走式セット動噴
MSV313B-K-1

永田製作所 新鉄砲ノズル
(型番1124100)



- ・新たに購入した機種

丸山製作所 自走ラジコン動噴
MSV619R2L

永田製作所 超遠距離鉄砲ノズル
(型番1124500)



※本事例は試験・対応の一例であり、機種や方法を推奨するものではありません。

機械の比較



項目	MSV313B-K-1	MSV619R2L
吸水量	26 L/min（低圧32 L/min）	41 L/min
最大圧力	5.0 MPa	5.0 MPa
エンジン	クボタ GH130（定格2.9PS → 最大4.2-4.3PS）	三菱 GB290LN（最大6.0PS）
ポンプ型式	MS313	MS619
寸法 × 質量	約1150 × 695 × 995 mm・約113 kg	1305 × 770 × 1210 mm・約160～165 kg
特徴	小型・軽量で取り回しやすい。狭い圃場や果樹園向け。	大型・高出力で広範囲散布に対応。高流量で遠距離噴霧に有利。
ノズル適合性	新鉄砲ノズル（1124100）：◎ 超遠距離鉄砲ノズル（1124500）：△ （圧力不足で最大性能不可）	新鉄砲ノズル（1124100）：◎ 超遠距離鉄砲ノズル（1124500）：◎

備考 MSV313B-K-1 + 新鉄砲ノズルでは樹高8 mまで届きますが、竹林はそれ以上に高かったため最上部まで届きませんでした。そのため、新機種を購入に至りました。

※本事例は試験・対応の一例であり、機種や方法を推奨するものではありません。

物理的防除方法 (キモンホソバノメイガ)



- タケの株元、物置の角（柱）、鍵穴、ブルーシートなど繭を探して除去します。

効果は不明



暗くて狭いところで繭を作ります



暗くて狭いところで繭を作ります





繭になるため、下に降りてきます。葉を食べるのをやめると赤くなっていきます。



竹林内の小屋等にも入ってきます。繭になる適当な隙間がなく弱っている幼虫。